

# 彩の合気

編集発行  
埼玉県合気道連盟

埼玉県合気道連盟機関誌NO. 18

## ■ 第22回・連盟合同講習会

——27団体345名、過去最多の参加！

去る6月20日(日)、さいたま市大宮武道館に道主植芝守央先生をお招きし、第22回合同講習会が開催されました。今年は、連盟の呼びかけに県下合気会所属の合気道明心会・日高市合気道同好会・秩父進修館・草加市合気道ゆうび会・合気道北本道場・尾間木公民館合気道教室の6団体も参加し活気に満ちたものとなりました。

講習会は、合気道大宮道場・藤田潤一理事の「かつてない大勢の参加者を得て開催できることを光栄に思います。最後まで充実した稽古を行い今後を活かそうではありませんか」との開会の辞に始まり、連盟を代表して市塚副会長より、「実りある講習会になることを期待します」との挨拶の後、さいたま市合気道連盟会長の武正公一衆議院議員も駆けつけられ祝辞を述べられました。

そのご早速、道主の実技指導が開始されました。冒頭道主は「大勢の方が参加されたことを大変うれしく思います。経験年数も様々なようですが、基本をしっかり学んで欲しいと思います」と期待を述べられ準備運動に入られました。

準備運動に続いて、正面打ち入り身投げ、両手・横面打ち入り身投げについて、説明演武されました。何れの技にも共通する入り身・転換の体捌きや呼吸力を生かすことの重要性が重ねて強調されました。猛暑到来前、例年より涼しい気温30度の日、この辺りからしたたる汗を拭う方の姿が目立ちはじめました。次に講習は座技正面打ち一教、諸手・片手取り一教、に進められました。

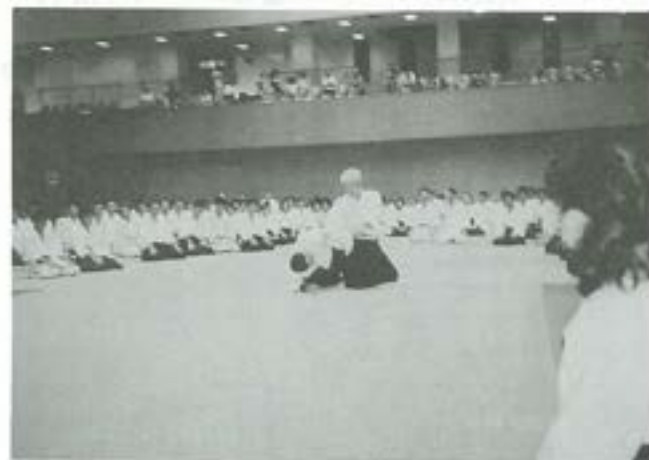
「みなさん、今日は動きがいいですね」の微妙な笑みを浮かべた道主の言葉に場内爆笑。更に横面打ち四方投げ、(この後、筆者は直会の関係であと30分でよろしいでしょうかと耳打ち)両手片手二教、座技肩取り二教と進まれ、体の捌きを再度強調されました。続いて天地投げ、最後は座技呼吸法で締めくくられました。この間、模範となる見事な受けを取られたのは佐々木・伊藤指導員でした。講習中、道主は絶えず稽古者の間を巡回され、水も摂られず自ら手を取り指導されておりました。最後に次年度、

主管道場である浦和合気会より、「今年の成功を是非来年に繋げていきたい」との心強い閉会の辞が述べられました。

その後、場所を移して開催された直会にも91名もの方が参加され、土屋会長(代理)の労いと期待の挨拶の後、道主からは「大勢の方が熱心に稽古されたことは、とてもすばらしいと思います」とのお褒めの言葉を頂き、人間幸武館館長・中島正吉氏の乾杯で、和やかな懇親会が開催されました。初参加の団体からは、「来年もよろしくお願いします」との表明もあり、各支部・道場の近況報告もなされて、瞬く間に2時間が過ぎました。



500畳から溢れる参加者



道主に集まる熱い視線

## 新シリーズ(4)

「我が支部・道場の師範はこんな人」

## 大成合気道会

吉川 博之

## —— 関根 章弘師範のことなど

某月某日(日曜日)午後二時過ぎ。

市内大成中学の武道館に三々五々会員が集まってくる。一礼して道場に入り、ある者は畳の台車を引き出し、ある者は木枠のポルトを締めている。畳を半分も敷かない内に子供たちがその上で「キャッキャッ」とはしゃぎ始める。

「おーい、遊んでないで手伝えよ」とすると、一枚の畳を三・四人もがかかってパタンと下ろす。その様にまた子供たちは笑いころげる。

道場の準備がほぼ終わる頃、「ヤァ、どうも」と、くぐもった声をかけ師範が姿を現す。着替えもそこそこに子供たちとの鬼ごっこが始まる。この鬼ごっこだけは、他の大人は相手ができない。

二時半、皆が揃い、自然と一列に正座。正面に師範。背筋から腰に響く気合一声。

「黙想！」一分、二分…。

某月某日(日曜日)

稽古もたけなわ、皆、汗びっしょり。ある技について師範が説明を始める。

「ここで、パーッと行って、ガッと受ける。それで、ダーッとやればいい……」こんな説明も今では随分分かりやすくなった。「相手が手首をガッと取る。そこでスーッと掌に体の重心を乗せる……」間髪を入れず、「先生、掌に重心なんて行く訳がないですよ。ワカンナイです」「え、まあ、そういうことなただけだな……」上方漫才も顔負けのやりとりに道場がドーッと湧く。だが師範の動きから眼を離す者はいない。週に一度しかない稽古。皆、食欲に一つでも多くを学びとろうとしている。会員二十数人の小さな会だが、こういう関根師範のもと、ここ数年来、転動などで来られなくなった人はいるものの、やめていった人はいない。



今年度夏合宿、ひたちなか市武道館前で

## 越谷市合気道連盟

石川 里見

## —— 夏季合宿報告

今年の少年部夏季合宿は、7月24日(土)25日(日)の一泊二日で群馬県新治村の高原ハウスに宿泊しました。参加者は大人4名、子供20名(ちなみに私も子供2人と親子で参加。)

父兄の見送りをあとにバスの中は、ゲームやクイズと盛り上がっていました。昼は猿ヶ京のカッパ広場で焼きそばと焼きとうもろこしの食べ放題、汗だくで料理をしていた瀬尾・石川先生の姿がとても印象的でした。宿に着いて早速、稽古着に着替え道場に畳を敷き全員で清掃。稽古は瀬尾・石川先生の指導のもとに受身、基本技を中心に汗を流しました。後半は木刀で素振りを行い、いつもとは違った道場での稽古に参加者全員緊張のうちに一日目の稽古が終わった。稽古後、素振りの成果が早速スイカ割で発揮され、鋭い打ち込みでスイカがかわいそう。夕食後、花火大会、きも試し、そして、旅館の前の田んぼには蛍が見られ、とても良い思い出の夜となりました。



翌朝六時に起床、ラジオ体操そして、近くの赤谷湖までジョギング。朝食後二日目の稽古、今日はいつもより暑〜いと全員汗だくになりながら基本技、応用技と頑張りました。午後旅館を出発、帰りのバスでは連盟の演武会、今年の県少年錬成会、千と千尋などのビデオを見ながら親御さんの待つ越谷に到着。子供たちに「何が一番よかったかな」と尋ねると「蛍が見られたこと、きも試し、みんなと一緒に風呂に入ったこと」合気道の稽古のことは出なかったが、参加した全員がとても今回の合宿を楽しんでくれたと感じました。

## 合気道自然館

堀口 正裕

## 防衛庁合気道夏期合宿訓練 所感

台風の影響で心配された天候も格好の合宿日和となり、今年も猛暑の中、全国各地の道友と厳しくも愉快地稽古が出来たこと非常に嬉しく、実行委員の方々に改めて深く感謝申し上げます。

この夏季合宿訓練は、磯山師範が航空自衛隊入間基地合気道部を主体に発足してから40年を超える、実に半世紀近くに及び一度も欠かすことなく“実践合気”の指導にあたられてきた伝統と歴史ある合宿です。現在では自衛官のみならず一般参加者、海外からの参加希望者も毎年増え続け、参加する度にその盛況振りに圧倒されます。

合宿は2泊3日で実施され、例年では合宿2日目に大変ご多忙な中を道主に御来駕を賜り、直接ご指導を頂きます。当合宿のこの上ない喜びです。

鹿島神武殿の三百畳の大道場に約三百名近い道友が所狭しと居並ぶ様に、磯山師範のお力なくして今日の盛況はあり得なかったであろうこと、またこの合宿の歴史と伝統を守り続け、更なる発展をさせていく必要性を痛感した次第です。今では数少ない開祖の直弟子でいらっしゃる磯山師範のご指導を賜ることで、合気道の真髄に触れることが出来ました。最大の参加目的はここにあります。厳粛な雰囲気の中、技の習得のみならず、日常生活に活かす合気道“実践合気”のご教示には、私達一人一人が現在の暗い世相を一気に克服し健全な社会の再構築を實踐していく為のヒントが込められており、今年も師範への敬服と感謝の念が一層深まりました。今後益々のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

本合宿の経験とご指導頂いた合気道の理念を礎とし人格完成に精進していきたいと思えます。

末筆になりましたが、全国の道友皆様のご健勝と本合宿の益々の発展を心から祈念申し上げます。



厳しい三日間の合宿を終え、宿舎にて磯山師範と。  
師範の左：堀口正裕、師範の右：吾妻館長

## 合気道和光支部

永井 亜希子

## 身も心も充実した夏合宿

連日、35℃近くになる猛暑の中、今年も夏合宿がやって来た。場所は昨年と同じ尾瀬で、参加者は子供26名、大人20名。初参加の人も多く、行きのバスは期待と不安が入り混じった雰囲気が漂っていた。合宿場所近くになると、見覚えのある風景に、子供たちが「あともう少しだ」と喜びの声。反対に、大人は「もう着いてしまうのか…」とどんよりした気分になっていく。そして到着。昼食後、すぐに子供と大人の合同稽古が始まった。

到着して、まだ間もないのに元気いっぱいの子供たち。声もいつも以上に出ていたし、ワザを教えてもらうため、大人と組もうと積極的だった。分からないことがあれば、先生や周りの大人に聞き、上手になりたい、もっとワザを知りたいという思いが伝わってきた。こうして子供の稽古が終わり、その後はついに大人だけの稽古。先生の鼻息荒く始まった稽古は、合宿にふさわしい、厳しく中身の濃いもので、終わったあとは、すがすがしく思う以上に、皆疲れきっていた（先生以外は…）。

夜は恒例の花火大会。今年は村主催の花火大会と重なり、打ち上げ花火が近くで見られた。満天の星空に上がる壮大な打ち上げ花火。山の向こうから大きな打ち上げ花火が上がるたびに歓声が上がり、時間も忘れて見入ってしまった。おかげで、夜の宴会開始時間は大幅に遅れたが、その分、明け方まで（誰もあばれることなく）先生を中心に飲み明かした。

合宿2日目。前日に引き続き、子供との合同稽古の後、大人だけの稽古があり、午前11時30分無事終了。最後までエンジン全開だったのは先生だけで、皆気力だけで動いている状態だったが、稽古終了時には拍手が起こり、やり遂げた気分になった。

稽古の後はメインイベント「川での魚のつかみ取り」。体はクタクタなのに、子供達と一緒に川で泳いだり、スイカ割りを楽しんだりしてはしゃいだ。稽古も遊びも充実した合宿だった。



合宿中の優秀者に表彰状

**第19回・連盟少年錬成会**

—— 181名が参加、熱心に稽古

4月18日(日)、狭山市市民総合体育館において、県連傘下12団体181名が参加して第19回少年錬成会が開催された。

まず、主催者を代表して、市塚勇連盟副会長の「みなさん、こんにちは」の呼びかけに、静かに正座する子供達の元気な声が館内に響き渡った。

続いて主管道場・合気道自然館・吾妻正義館長より挨拶を頂いたあと、早速全体錬成開始。吾妻館長のジャンプに合わせて、子供たちの声が大きくなっていく。腕立て10回を3セット。膝行も途中で回転し向きを変えながら。館長の上手い導き方に子供たちが乗っていきました。

準備体操に続いて基本技の錬成に進んだ。正面打ち一教、正面打ち入り身投げ、片手取り転換法。如何に離れずに付いていくかに、イキイキと回り込む子供たち。一つの技が終わり、静かになるのが感心でした。「相手を変えてやりましょう」の館長の支持にやや途惑いながらも、他団体の子の前に進む子の姿が印象的でした。

続いて回転投げ、最後は座技呼吸法で締めくくられたが、この間、各道場の責任者らも一緒に汗を流したのが、印象的でした。基本錬成後は、約1時間余に亘る団体錬成。持ち時間は、入退場も含めて5分。大所帯から少人数まで様々でしたが、それぞれ各団体の特徴が発揮されました。

会の最後に、連盟・川路理事長より具体的な講評がなされました。まず、「他の団体の演武をよく見ていたこと、挨拶」について、特に「礼」がよくできた数団体や難しい技に挑んだ団体に対し、賛辞が贈られました。名前を挙げられた団体の子供達の誇らしげな顔が印象的でした。



吾妻館長のやさしい指導

**県連活動報告****1. 連盟・常任理事会(3/7:和光市「養老の滝」)**

川路理事長・林副会長・松橋事務局長以下他常任理事を含めて8名が参加し、今年度定期総会向け議事の検討・理事会日程等、連盟運営の基本方針が審議された。

**2. 理事会(4/18:狭山市市民総合体育館)**

少年錬成会前、役員・各団体理事20名の参加を得て、第22回合同講習会の確認・打ち合わせ及び今年度総会議事が審議され、常任理事会提案の全ての事項が全会一致で決定され、総会に諮ることが決定された。

**3. 第22回定期総会(5/16:埼玉会館5F)**

今年度総会は36名(出席30名・委任状6)により開催された。川路昌治・理事長の挨拶に続いて、新評議員として狭山市合気道連盟・山本久則氏の紹介がなされ議事へと移った。

**I. 平成15年度事業・決算報告**

松橋事務局長より事業報告、向笠理事より決算報告、三輪監事の監査報告があり、全ての事項が全会一致で承認された。

**II. 平成16年度事業計画・予算案**

松橋事務局長より事業計画が、向笠理事より予算案が提案された。また、この間の検討模索されてきた、「彩の合気」について、松橋事務局長より予算・発行方法について定着した旨の報告がなされ、斬新なアイデアを取り入れ、今後内容の一層の充実を図ることが確認された。理事会提案の全ての事項が承認された。

**III. 平成16年度・第19回少年部錬成会報告****IV. 第22回合同講習会に向けての参加態勢強化・当日の運営について**

- \* 県下、63団体への案内状配布(事務局)。
- \* 知人・友人への訴えかけ。
- \* 500畳のたたみ敷きと片付けの迅速化。

**V. 次期役員体制の早期検討開始の必要性**